

絵本の背景にある  
先人たちの想いに  
まなざしを向けて。

福祉貢献学部  
福祉貢献学科  
子ども福祉専攻  
教授

# 青木 文美

### 【学 歴】

2009年3月 愛知教育大学大学院教育学研究科国語教育専攻  
国文学専修修士課程修了 修士(教育学)  
2003年3月 愛知淑徳大学大学院文学研究科国文学専攻  
博士後期課程単位取得満期退学

### 【職 歴】

2009年4月 愛知淑徳大学医療福祉学部福祉貢献学科 講師  
2010年4月 愛知淑徳大学福祉貢献学部福祉貢献学科  
子ども福祉専攻へ転属  
2015年4月 愛知淑徳大学福祉貢献学部福祉貢献学科  
子ども福祉専攻 准教授  
2022年4月 愛知淑徳大学福祉貢献学部福祉貢献学科  
子ども福祉専攻 教授(現在に至る)

子どもの読み物に関心を寄せ、児童文学や児童文化の成り立ちを探る青木先生。教える子である子ども福祉専攻の学生には「作家や編集者など作り手の想いも理解し、絵本を選ぶ目を養ってほしい。そして、保育や幼児教育の現場で絵本をただ提供するのではなく、子どもたちと向き合い、成長を支えるために役立ててほしい」と期待し、授業やセミナーで児童文化を伝えています。

授業では、主に、絵本などの児童文化や子どもの言語環境を豊かにする支援の方法を教えています。私の研究テーマは、日本の児童文学・児童文化という分野の生成過程をたどることです。中でも、北原白秋や西條八十が始めた童謡に着目しており、与田準一という書き手を追っています。与田準一の代表作は、「こころはとつてもうたがすき」の「こころのうた」ですが、作り手としてよりも、児童文学・児童文化をけん引した人物として評価しています。童謡は、子どもを巻き込んだ大正期の大ブームでした。白秋や八十が関わった雑誌で投稿募集し、地方に住む教員や子どもなど名もなき人々が投稿しました。今ほどメディアが発達していない時代ですから、手書きの自作が活字化されるなんて夢のようです。入選を果たせば、地域ではちょっとしたスターです。与田準一も白秋の郷里・福岡県柳川市のお隣・瀬高町の人で、代用教員として受け持ちの

子ども達と競うように創作し、白秋に見出されました。やがて、白秋を頼って上京します。時代は昭和初期です。幸か不幸か、書生として白秋に尽くす姿がお上の目にとまり、少国民文化協会幹事として児童文学・児童文化に関わります。ポツと出の一発屋が、戦時下の子ども読物をけん引することになったのです。戦後は、《こどものとも》第1号となった『ピッパとちようちよう』やエッセイ『わたしとあそんで』など絵本の創作や翻訳にも尽力しました。そして、まど・みちおや岩崎京子、あまみきみこなど戦後をけん引した作り手は彼を慕いました。功罪ありますが、彼の下で戦後の児童文学・児童文化は始まったと考えています。児童文化は時代の影響を受けやすい分野です。だからこそ、保育を学ぶ学生には絵本などの児童文化が豊かに描く環境を当然だと考えないでほしいし、児童文化にちりばめられた人々の生きざまを見てほしいと願っています。

## 青木先生の主要著書・論文

- 『赤い鳥事典(項目執筆)』与田準一 360-362頁、  
〔佐藤義美〕 348-350頁 2018年 柏書房
- 『新・保育実践を支える言葉(共著)』67-93頁 2018年 福村出版
- 『絵本から「子ども福祉」を考える(編著)』12-13頁、20-31頁、38-43頁、  
96-101頁、128-133頁、174-175頁、182-187頁、  
206-211頁、292-297頁、396-401頁 2016年 春風社
- 『雑誌「赤い鳥」投稿童謡詩人たちの太平洋戦争』『鞠苑』6(共著)  
49-64頁 2016年 海風社
- 『二心に残る絵本の発表原稿に見る絵本の捉え方変容過程を追う  
―絵本の選択力育成に関する一考察―』『愛知淑徳大学論集 福祉貢献学部篇』(5)  
1-14頁 2015年

